

第1436回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 令和2年8月20日 木曜日

開会 9時30分 閉会 11時50分

2 場 所 京都市総合教育センター 第1研修室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	奥野 史子
	委 員	星川 茂一
	委 員	高乗 秀明
	委 員	笹岡 隆甫
	委 員	野口 範子

4 欠席者 なし

5 傍聴者 26名

6 議事の概要

(1) 開会

9時30分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会議録の承認

第1435回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案4件

イ 非公開の承認

議案2件について、その他の関係機関と協議等を必要とする事項に関する案件、人事に関する案件であり、京都市教育委員会会議規則第3条に掲げる「非公開事項」に該当するため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全員の承認が得られた。

ウ 議決事項

議第11号 令和3年度から令和6年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する教科書の採択について

(事務局説明 文田 学校指導課担当課長)

本日は、議題11号「令和3年度から令和6年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）で使用する教科書の採択について」、お諮りする。

議案説明に先立ち、まず、教科書採択事務の経過について、ご説明申し上げます。

5月7日の教育委員会において、教科書採択にかかる基本方針および選定の観点について審議・議決をいただいた。その後、学校現場の教員、学識者、保護者代表、各教科の指導主事など計110名からなる「京都市地区中学校教科書選定委員会」を設置し、5月18日の第1回会議において、教育長から教科書選定に関わる諮問を行い、調査研究が開始された。

教科書選定委員会は、全体会を計3回開催したが、新型コロナウイルス感染防止のため、1回目・2回目は持回り、3回目は出席者を限定する形とした。学識者や保護者代表の委員の皆様には、そのような状況の中、教科書展示会にも足をお運びいただきながら、幅広い視点からご質問やご指摘を頂戴してきた。また、全体会以外に、各教科の調査研究部会も、端末のアプリやメール等を活用し、リモートの中で、延べ100回にわたり、実質的な協議を重ねていただいた。7月27日には、調査研究の結果をまとめた最終の答申を提出いただいている。

教育委員会においても、この間、選定委員会の協議内容、調査研究の状況、教科書の特徴等について、計7回（本日を合わせて8回）にわたり、協議いただいていた。7月30日及び8月6日には、答申の内容について、協議いただいたところである。

次に、教科書展示会についてご説明申し上げます。「開かれた教科書採択」を推進するため、法定期間の14日間を超え、6月1日から1ヶ月にわたり、法定2会場に本市独自の4会場を加え、計6会場にて開催した。なお、会場について、これまで11会場で開催していたところ、感染症対策のため、小規模な図書館等は見送る中で、行政区のバランスを考慮のうえ、法定2会場に本市独自4会場を加え、計6会場にて開催した。最終、閲覧者名簿にご記名された方で計260名に来場いただき、意見書は110件頂戴している。また、意見書以外にも、事務局に対して直接提出された要望書は2団体から3件いただいた。

次に、議案についてご説明申し上げます。採択候補は、国語科：光村図書出版、国語科（書写）：光村図書出版、社会科（地理的分野）：帝国書院、社会科（歴史的分野）：帝国書院、社会科（公民的分野）：日本文教出版、社会科（地図）：帝国書院、数学科：新興出版社啓林館、理科：大日本図書、音楽科（一般）：教育芸術社、音楽科（器楽）：教育芸術社、美術科：光村図書出版、保健体育科：東京書籍、技術・家庭科（技術分野）：東京書籍、技術・家庭科（家庭分野）：東京書籍、外国語科：東京書籍、特別の教科 道徳：東京書籍である。

各教科の選定理由は別紙1「各教科書の主な特徴等について」に基づき、教科順に担当指導主事からご説明申し上げます。

(事務局説明 国語科・国語科（書写） 立垣 主任指導主事)

国語科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい国語」である。全体を通して、話すこと・聞くことの領域がやや少ないが、書くことの領域を含め、相手の立場を踏まえて議論し、根拠をもって伝え合う

活動が重視されている。また、各所に活動過程の具体例や対話例が示されるなど、言語活動の充実が図られているとともに、各教材の「てびき」では、習得した知識・技能を生徒が自分の言葉でまとめ、振り返るための手順等に加え、複数の情報を結び付けたり、根拠を示して自分の考えを述べたり、文章を吟味して評価するなどの課題が豊富に設定されているなど、よく工夫されている。さらに、国語の学びを実生活の中で生かす手立てが漫画で示されており、生徒にとって社会生活との関連がわかりやすい。

三省堂「現代の国語」である。3領域が豊富かつバランスよく配列されている。また、各教材の「学びの道しるべ」では、学習過程や思考の手法がわかりやすく解説されており、考え方や表現の方法とともに、生徒が根拠をもって自分で考える態度や力を身に付けられるようよく工夫されている。ただし、学んだことを自分の言葉でまとめる手がかりとなるキーワードが示されているものの、どの教材も同じ文言で振り返りを促しており、また、「社会生活に生かす」で示されるメモや辞典の活用、手紙やメールの書き方やポイントの例が各学年とも同じ内容で、本文との関連も明示されていないなど工夫としては弱い。

教育出版「伝え合う言葉 中学国語」である。3領域の各教材の「学びナビ」において、表現活動を支える用語や考えるヒントなどが示されており、生徒が根拠を明確にして、考えを深め、表現する方法を習得する手立てとなっている。ただし、振り返り活動は自分の言葉でまとめる形式となっておらず、また、話すこと・聞くことの活動では、生徒が実際の場面を想起しながら、意欲的に取り組むための手立てが弱いなど、全体を通して特筆すべき工夫等はみられない。

光村図書出版「国語」である。3領域が豊富かつバランスよく配列され、根拠を明確にして自分の考えを書く教材が3年間にわたり系統立てられている。また、各教材では、学習過程が視覚的に示されることで、生徒が何を学ぶのか、どのように学ぶのかが明確であるとともに、各所に設定される言語活動は多様で、社会生活を想定した場面設定も効果的である。さらに、各領域の力を融合させる一体的な学びが用意されるとともに、読むことの教材では、生徒が習得した力を意識的に活用するための手立てに優れているなど、全体を通して工夫や手立てが豊かな構成である。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

国語科・書写についてご説明申し上げます。

東京書籍「新編 新しい書写」である。3年間で学ぶ知識・技能が系統的に整理され、生徒が各学年で重点的に学ぶ内容を意識化できるよう工夫されている。また、話し合い活動や説明する活動、学んだ内容を他の文字に生かしながら、考えて書く活動など、知識・技能の定着に留まらず、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けられるようよく工夫されている。さらに、文字文化に親しむ教材やコラムが豊富なことが特徴的である。

三省堂「現代の書写」である。基礎編・本編・資料編の三部構成である。生徒が見通しをもって学習に取り組めるようステップを踏んだ構成が各単元で統一されていることが効果的である。また、書き方や学習ポイントがイラスト等を用いて視覚的に示されるなど、生徒が課題を捉えやすい。さらに、各学年の話し合い活動では、新聞や情報誌の作成等を提案し、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されているものの、いずれも他社と比べて特筆すべき工夫等となっていない。

教育出版「中学書写」である。他の3社とは異なり、学習の前段階として、まず「試し書き」を行ったうえで、教科書の文字と比べて、字形や筆順等を確認するなど、生徒

が課題を発見したり、気付きを得たりすることにつながる構成が特徴である。また、目的意識や相手意識をもって思考・表現することを促すため、生徒が自分で課題を選択する教材が設定されているとともに、手紙の書き方や現代文や古文の書写など硬筆学習を中心とした課題設定で、書写の学びを広げられるよう工夫されているものの、いずれも他社と比べて特筆すべき工夫等となっていない。

光村図書出版「中学書写 一・二・三年」である。系統的・発展的に学習できるよう単元構成が工夫されているとともに、各単元の学習の流れが統一されており、生徒にわかりやすい。また、文字の原理原則を考えたり、表現したり、振り返ったりする活動を通して、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けられるようよく工夫されている。さらに、各教材に言語活動を充実するための具体的なヒントを示すとともに、字体が変化する過程や様々な書体等を紹介するなど、生徒が多様な文字文化を感じ取れるようよく工夫されている。掲載される文章は多彩で、国語科の教科書との関連も図られていることなども、書写の学びを広げるための優れた手立てとなっている。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 社会科(地理的分野)(歴史的分野)(公民的分野)(地図) 森 首席指導主事)

社会科(地理的分野)については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい社会 地理」である。単元を貫く「探究課題」と毎時間ごとの「学習課題」の2段階の問いとそれぞれに対応したまとめや振り返り活動とともに、「探究課題」の解決につなげる「探究のステップ」が用意されるなど、課題解決的な学習の流れが構造化され、生徒が取り組みやすい。また、「見方・考え方」マークを付した活動を随所に設定するとともに、思考ツールの活用を提案する「まとめ活動」など、生徒が見方・考え方を働かせながら、探究課題の解決を図れるようよく工夫されている。さらに、SDGsと関連付けながら、地球的課題の視点から各地域の特色を捉え、持続可能な社会に向けての課題を考察するなど、生徒が社会参画の意識を高められるようよく工夫されている。

教育出版「中学社会 地理 地域にまなぶ」である。毎時間の学習課題に対するまとめ活動、単元末でのまとめ活動に加え、単元を通して身に付けた知識・技能を活用して現代的な課題について考える特設ページを各所に設定するとともに、見方・考え方を働かせる問いを毎時間設定している。また、生徒が地理学習に必要な技能を身に付けられるよう、生徒が資料を読み取り、分析する際の視点を示したり、地域的特色を追究したり、持続可能な社会について考えたりする各種コーナーや題材が用意されているものの、いずれも他社と比べて特筆すべき工夫等となっていない。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」である。単元を貫く問いと毎時間の問いが2段階で示され、それぞれの問いに対するまとめや振り返り活動が構造的に設定されており、生徒にとって学習が進めやすい。また、見方・考え方を働かせて段階的に取り組む課題解決的な学習とともに、各地域の特色や背景、課題等を踏まえ、持続可能な社会に向けた自分の考えを表現したり、まとめたりする活動が設定されるなど、多面的・多角的に考察しながら、課題解決につながる言語活動が充実しており、優

れている。さらに、コラムの題材が豊富なことに加え、地球的課題と地域的特色を関連付けて考察する活動や、各地の課題を考察し、課題解決に向けて構想・発信する活動等が適宜設定されるなど、生徒が持続可能な開発目標の意義について理解を深めるとともに、社会参画の意識を高められるようよく工夫されている。

日本文教出版「中学社会 地理的分野」である。単元の導入や毎時間ごとに見方・考え方が着目する視点として示され、イラストを用いた巻頭の解説ページなど、生徒が常に見方・考え方を意識しながら、学習に取り組めることが特徴である。また、地球的課題が一覧表の形で示されており、各州の特色と関連させながら、生徒が地球的課題の要因や影響を考察しやすいとともに、特設ページ等で地球的課題と地域的特色と関連付けて考察する活動を設定するなど、よく工夫されている。ただし、単元を通して解決を目指す学習課題は設定されておらず、生徒が課題解決的な学習を進めるための手立てが弱い。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

社会科（歴史的分野）について、ご説明申し上げる。

東京書籍「新編 新しい社会 歴史」である。単元を貫く「探究課題」、各節の「探究のステップ」、毎時間ごとの「学習課題」の3段階に構造化された問いとそれぞれに対応したまとめや振り返り活動が設定されており、よく工夫されている。また、特設ページ「地域の歴史を調べよう」では、課題解決的な学習の具体的な進め方に加え、ポスターセッションなど、生徒がまとめ・表現する際の多彩な方法が紹介されている。さらに、各時代の出来事について、年表をもとに振り返り、Xチャート等の思考ツールを活用して整理しながら、その特色を文章でまとめるという一連の活動が設定されており、生徒が歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えるための有効な手立てとなっている。

教育出版「中学社会 歴史 未来をひらく」である。単元を貫く問い、節ごとの問い、毎時間ごとの学習課題の3段階に構造化された問いに対し、節ごと、毎時間の2段階でまとめが設定されており、工夫されている。また、見方・考え方を働かせて取り組むコーナーや時代の特色を考察する特設ページ、生徒の関心を広げるコラム等が多様に用意され、言語活動の充実が図られている。ただし、生徒が歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えたり、我が国の伝統と文化を尊重しようとする態度を身に付けるための工夫等はみられるものの、他社と比べて特筆すべきものとはなっていない。

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」である。3段階に構造化された問いに対応したまとめや振り返り活動が設定されており、それら学習課題を段階的に解決していく中で、時代の概観や流れが捉えられる構成が特徴である。また、各時代の様子を描いたイラスト「タイムトラベル」や各章末の振り返り活動等は、生徒が歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えるための優れた手立てとなっている。さらに、各所に用意される話し合い活動や論争的な課題等が充実しており、生徒が多面的・多角的に考察し、説明する力を身に付けるために効果的である。各時代の文化史の記述や資料が充実し、その解説や紹介の仕方に工夫がみられ、豊富なコラムとあわせて、我が国の歴史に対する愛情を深め、伝統と文化を尊重しようとする態度を身に付けるための優れた工夫となっていることも特徴的である。

山川出版「中学社会 日本と世界」である。古代から近代の世界の歴史に関する記述量が多いなど、日本と世界の主な歴史の流れが概観的に捉えやすく、生徒が日本と世界の出来事を関連付けながら学習できるよう工夫されていることが特徴である。ただし、

毎時間ごとの学習課題は示されているものの、単元や節のまとまりごとの学習課題は設定されていない。また、言語活動につなげる発問が豊富に用意されており、多面的・多角的に考察する力を身に付けられるよう工夫されているが、対話的な活動を促す場面が少ないなど、全体的に他社と比べて工夫等が弱い。

日本文教出版「中学社会 歴史的分野」である。何を学習するのが「めあて」の形で示されるとともに、毎時間の学習課題とその課題に対応したまとめや振り返り活動が設定されており、工夫されている。また、多様な言語活動に加え、各時代の特色を捉えるための活動や我が国の歴史と世界の歴史との関連を意識した活動等が用意される特設ページやコラム等が豊富で充実している。さらに、見方・考え方が課題解決に向けた手がかりとして毎時間示されるとともに、各所に見方・考え方を働かせて取り組む課題が特設ページ等に用意されており、生徒が考察する力や説明する力を身に付けるための優れた手立てとなっている。「地域に学ぶ」等の多様な特設ページで、地域に受け継がれてきた行事や活動などを継承・発展させることの意義が重視されていることも特徴的である。

育鵬社「新編 新しい日本の歴史」である。多様な特設ページや本文の各所に、我が国の歴史を築いてきた人物の役割が重視されているとともに、文化財に関する資料も豊富に提示されるなど、生徒が我が国の歴史に対する愛情を深め、伝統と文化を尊重しようとする態度を身に付けるための工夫に優れている。また、対立する立場の意見を踏まえ、生徒同士が議論する活動や時代の特色を表すパネルや説明文を考える活動など、生徒が歴史的事象を考察し、自分の言葉で表現するなど、多様な言語活動が充実している。さらに、各章のまとめ活動など、見方・考え方を働かせながら、その時代の特色を捉えるための問いや課題が設定されているとともに、生徒が歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えるための多様な資料や活動が、各単元の導入をはじめ各所に用意されていることも特徴的である。

学び舎「ともに学ぶ人間の歴史」である。各章の冒頭にその時代の外国の主な出来事等がテーマ別に示されるなど、各時代の世界の様子が捉えやすいのが特徴である。また、各所に今日につながる伝統行事等を多彩に紹介し、生徒を文化の担い手として記述するとともに、巻頭での特集や、歴史絵画の推理、その時代の人にインタビューなど、生徒の関心を高めながら、歴史の大きな流れを大観し、各時代の特色を捉えるための多様な活動が用意されている。ただし、グループ活動等を通して、時代の特色や転換を振り返りながら、考察し、表現する活動等が設定されているものの、毎時間ごとのまとめ活動等が設定されておらず、課題解決的な学習活動や見方・考え方を働かせる課題等もほぼみられないなど、全体を通して工夫が弱い。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考える。

社会科（公民的分野）について、ご説明申し上げます。

東京書籍「新編 新しい社会 公民」である。単元を貫く「探究課題」、各節の「探究のステップ」、毎時間ごとの「学習課題」の3段階に構造化された問いとそれぞれに対応したまとめや振り返り活動が設定されており、よく工夫されている。また、随所に設定されたコーナーが、資料の読み取り、情報収集・まとめなど、生徒が公民学習に必要な技能を習得するための有効な手立てとなっている。さらに、すべての単元で、解決すべき社会の課題を把握するための視点を自ら見つけ出し、その課題解決に向けて、見方・考え方を働かせながら、考察を深め、価値判断や意思決定、構想する対話的な活動等が設定されるなど、課題解決的な学習が充実している。

教育出版「中学社会 公民 とともに生きる」である。単元を貫く問い、節ごとの問い、毎時間ごとの学習課題の3段階に構造化された問いに対し、節ごと、毎時間の2段階でまとめが設定されており、工夫されている。また、グループ活動等を通して、生徒が公民学習に必要な技能や表現力を身に付けられるよう、随所にコーナーやコラムが設けられているとともに、適宜「見×考」マークが付され、見方・考え方を働かせて現代社会の考察を深める問いが設定されるなど、より深く課題を追究できるよう工夫されている。さらに、人権に関するコラムや特設ページが他社に比べ多様で豊富なことが特徴的である。

帝国書院「社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして」である。3段階に構造化された問いとそれぞれに対応したまとめや振り返り活動が設定されており、それら学習課題を段階的に解決していくことで、学習内容を習得できるよう構成されていることが特徴である。また、資料を読み取る視点等を具体的に示す「資料活用」が毎時間設定されるとともに、随所に情報収集・分析や意見整理等の方法が紹介されるなど、生徒が公民学習に必要な技能を身に付けられるようよく工夫されている。さらに、単元の導入のイラストを読み解く活動からはじめ、社会の課題を考察し、他者の意見をもとに自分の考えを深める活動が各所に用意されるなど、単元を通して考察・構想するための構成に優れている。各所に社会が直面する課題を取り上げるとともに、適宜SDGsマークを付すなど、生徒が持続可能な社会の形成に参画する態度を身に付けるための手立てにも優れている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」である。毎時間の学習課題とその課題に対応したまとめや振り返り活動が設定されていることに加え、見方・考え方が課題解決に向けた手がかりとして毎時間示されるとともに、各所に見方・考え方を働かせて取り組む課題が特設ページ等にも用意されており、課題追究を行うための優れた手立てとなっている。また、社会の課題を多面的・多角的に捉え、自分ごととして考察・構想・表現する特設ページ等が豊富であるとともに、各所に持続可能な社会に向けて考える題材を取り上げるなど、全体を通して生徒が持続可能な社会の形成に参画する態度を身に付けるための工夫に優れている。さらに、日本の各地域に受け継がれてきた様々な伝統と文化の多様性を取り上げ、グローバル化の中で国際的な視点から我が国の伝統と文化を考察する教材が用意されるなど、生徒が我が国と郷土を愛し、伝統と文化を尊重するとともに、他国の多様な文化や価値観を互いに尊重する態度を身に付けることができるよう工夫されている。

自由社「新しい公民教科書」である。特設ページやコラムを組み合わせ、日本人の自画像、文化の継承と発展について考えを深める構成が、生徒が我が国と郷土を愛し、伝統と文化を尊重する態度や社会参画への意識を身に付ける手立てとなっている。ただし、単元を貫く問いや毎時間ごとの学習課題、学習内容のポイントをまとめて示すなどの手立ては見られるものの、全体を通して、関連資料の掲載が少なく、情報収集・分析、資料を読み取る力などの技能を磨くためのコーナーもほぼ設定されていないなど、生徒が公民学習に必要とされる技能を身に付けるための学習の手立てが弱い。また、見方・考え方を働かせる課題は設定されているものの、考察を深めるための視点や手立てはほぼみられないなど、工夫がやや弱い。さらに、多様な視点をもとに、生徒が現代社会の特色を捉え、解決に向けて考察、構想する場面の設定が少ないことも課題である。

育鵬社「新編 新しいみんなの公民」である。全体を通して、現代社会の仕組みをよ

り深く理解することに重点が置かれており、本文中での詳しい説明に加え、論点を整理して示すことで、生徒が見方や考え方を働かせながら取り組めるとともに、各所に用意される各種コーナーが、社会の課題を追究し、考察・構想するための優れた手立てとなっている。また、国際社会の課題を見出す活動に加え、各単元でSDGsに関する教材等を適宜紹介するなど、生徒が持続可能な社会の形成に参画する態度を身に付けられるようよく工夫されている。さらに、私たちの生活と文化のかかわり、日本の伝統と文化、文化の継承と創造について紹介するなど、生徒が我が国と郷土を愛し、伝統と文化を尊重するとともに、他国の多様な文化や価値観を互いに尊重する態度を身に付けることができるよう工夫されていることも特徴的である。

以上を総合的に勘案した結果、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

社会科（地図）について、ご説明申し上げる。

東京書籍「新しい社会 地図」である。全体を通して、写真や資料が豊富で、一般図及び主題図とともに、歴史的・公民的な視点から地域を概観できる資料が掲載されるなど、生徒が多面的に地理的な知識を身に付けるための工夫に優れている。また、領土や防災等に関連する資料等も適切で、随所に設けられるキャラクターの吹き出しが、読み取りや考察、探究のヒントとなっているとともに、適宜「歴史・公民マーク」が付されるなど、生徒に使いやすい。

帝国書院「中学校社会科地図」である。地図は大きく見やすく、主な資料図は可能な限り縮尺が統一されており、比較考察がしやすい。また、読み取りや考察の視点に加え、地球的課題や世界と日本の地域的特色を比較したり、考察したりする言語活動等が用意される「地図活用」が全ページに配置されており、生徒が地図活用の技能を身に付ける効果的な手立てとなっている。領土や防災等に関連する資料等も適切で、「防災」マークが付された多数の資料等をもとに系統的に自然災害・防災の学びを深められるとともに、歴史的分野・公民的分野で活用するための手立ても充実している。

以上を総合的に勘案した結果、「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

（事務局説明 数学科 田中 副主任指導主事）

数学科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい数学」である。問題解決の進め方を意識するための視点が示されており、それらの視点を活用して主体的に学ぶことができるよう工夫されているとともに、問題解決の手段を生徒同士が話し合う活動が設けられるなど、対話的に学習が進められる工夫も見られる。また、数学的な見方・考え方を働かせて事柄や事実、方法や手順、理由を説明する記述式問題に取り組む構成となっており、生徒の表現力を高められる工夫も特徴である。さらに、日常生活に関連した学習活動が設定されることで、生徒が数学と社会の関わりを意識できたり、データを活用し、複数の資料を比較しながら論理的・統計的に解決方法を考えることができるよう工夫されている。

大日本図書「数学の世界」である。主体的な問題発見の活動から始まり、見いだした問題に対話的な活動を通して解決していく流れにするなど、生徒が主体的・対話的に学習を進められるよう工夫されている。また、思考の過程がスモールステップで示され、

生徒が自己の思考を確認しながら協働的に深めることを通して問題を解決するなど、思考力・判断力・表現力等が育成できるよう工夫されている。さらに、歴史や偉人、美術や音楽と数学の関わりを紹介することで、生徒が数学と身のまわりの事象との関わりを意識したり、数学の有用性に気付けるような工夫や、データを活用したり、資料を比較したりする問題に取り組むことで、生徒が様々な資料を比較・検討しながら考察できる工夫も特徴的である。

学校図書「中学校数学」である。学習内容に関連した身近な題材を扱い、話し合いながら疑問を発見し、学習の目標を立てる設定とすることで、主体的・対話的な学びとなるよう構成されている。また、キャラクターの会話の中で協働的に解決していく方法を示したり、レポート例や発表のしかたなどを分かりやすく示したりするなど、生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら考えることができるよう工夫されている。さらに、社会の事象を数学的に考えたり説明したりする活動を紹介することで、生徒が身近な事例を数学的に考えることができたり、対話的な活動の中で批判的に考察する場面を繰り返し設けることで、資料を比較しながら考えることができるよう工夫されている。

教育出版「中学数学」である。学習内容に即した問題発見・解決のプロセスや数学的な考え方をを用いて学習を進める方法を示したりするなど、生徒が数学的な学習過程を多角的に意識できる構成となっている。また、次の学習内容に関連する既習の知識・技能の振り返り問題や既習内容を次の学年の学習に活用できる「学びのマップ」を設けることで、生徒が既習内容を段階的に確認・活用しやすいよう工夫されている。さらに、生徒が日常生活や社会との関わりを意識しながら学習に取り組める話題を取り上げたり、生徒同士の会話をもとに問題解決を進める中で、様々な資料を整理し、比較・検討しながら考察できるよう工夫されている。

新興出版社啓林館「未来へ広がる数学」である。問題解決の手順を問題発見、解決、深めるの3ステップで示した上で、表や図を用いて数学的に考える活動に取り組む構成となっているほか、全体として主体的・対話的な学びを重視した活動がバランスよく配置され、生徒が深く探究できる優れた構成となっている。また、複数の考え方や答えが想定される問いを協働的に解く活動を通して、生徒の言語活動が充実するよう工夫されている。さらに、日常生活や社会との関わりを意識できる身近な話題を題材とした問題や、福祉・環境や持続可能な社会づくりに関する問題など、今日的な課題を豊富に提示することで、生徒が数学的な見方・考え方を働かせながら考え、数学を学ぶ意義や有用性を実感できるよう、優れた工夫がされている。他にも、学習内容を活用し、複数の資料を比較しながら考える問題に取り組むことで、生徒が論理的に問題解決を進め、学びを深めていくことができるよう工夫されており、優れている。

数研出版「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学」「見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学 探究ノート」である。キャラクター同士の対話形式の会話によって問題を提示したり、様々な問いや考え方が示されることで、生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的に学びを進められる構成となっている。また、日常生活に関連する事象を1つに絞り、表やグラフを用いてデータを比較しながら論理的に解決方法を検討する構成となっており、様々な視点からデータを整理し、比較・検討しながら考察できるよう工夫されている。ただし、生徒にとって身近な例が取り上げられているものの、学習活動との関連が示されていない例が見られるなど、生徒が深く考えたり、自ら学ぼうとする意欲を高めたり

することに繋がる手立てが十分でない。

日本文教出版「中学数学」である。既習事項の問題を解いてから次の章の学習へ移る設定とすることで、家庭での予習やつまづきを未然に解決したうえで新たな学習に取り組むやすい構成となっている。また、学習内容を活用して考えたり、話し合う問題が掲載された「対話シート」を活用することで、生徒が主体的・対話的な学習を進めやすい工夫が特徴である。さらに、問題発見から解決に至るサイクルをわかりやすい言葉で示し、様々な資料を比較・検討しながら考察できるよう工夫されている。ただし、日常生活の事象を数学的に考える活動が用意されているものの、全体としてドリルに重点を置いた編集で、日常生活と数学の関連を想起させる手立てが十分でない。

以上を総合的に勘案した結果、「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 理科 湯浅 主任指導主事)

理科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい科学」である。生徒が確認問題や応用問題を解くことで、繰り返し学習内容を確認でき、基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい構成となっている。また、観察・実験について、課題設定の手順や考え方の提示、結論の確認という構成とするとともに、結果の分析や考察するための視点、科学的な見方・考え方を活用する課題を設定するなど、生徒が科学的な用語や概念を活用して探究的な活動に取り組むことができるよう工夫されている。さらに、河川氾濫を想定したハザードマップなど、生徒の興味を引く写真やイラストを題材にするなど、安全や環境への意識を高めるよう工夫されている。しかし、生徒が主体的に学習内容の振り返りができるよう工夫されている一方で、対話的な学習を促す場面がやや少ない。

大日本図書「理科の世界」である。基礎から応用まで段階的に問いが設定されており、生徒が家庭学習を含めて学習内容の振り返りがしやすく、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう優れた構成となっている。また、理科の見方・考え方、情報の収集の仕方などを含めた科学的に探究するための学習過程が丁寧に示されていることも優れた特徴である。さらに、実験・実習後の考察場面など、随所に写真やイラスト、キャラクターによる対話場面やアドバイスが掲載されており、生徒が既習事項を確認しながら主体的に思考を深めたり、対話的な学習が可能となるようよく工夫されている。他にも、地震や災害など、自然災害に関する事象が写真やイラストとともに取り上げられているだけでなく、身近な暮らしの中で起こる災害時の対処例など、身近で考えやすい防災・減災の場面も取り上げられており、優れている。

学校図書「中学校科学」である。内容のまとめりとともに課題とまとめが明示されており、生徒にとって学習の流れがわかりやすい構成となっている。また、授業1時間ごとの課題とともに、観察・実験の「結果」「考察」においても科学的な見方・考え方を示し、順を追って探究的な学習に取り組めるよう工夫されていることも特徴である。さらに、探究活動の課題発見に関わる「気づき」を例示したり、キャラクター同士が会話する場面を掲載することで、生徒同士が対話しながら探究活動に取り組めるよう工夫されている。しかし、探究のヒントや考え方に関する説明は文章中心で、説明内容を具体的にイメージしにくい。

教育出版「自然の探究 中学理科」である。学習の要点整理や演習問題を掲載したり、観察・実験で必要となる技能などを分かりやすく図解したり、小学校での既習事項を随所に掲載することで、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。また、探究活動の流れを詳細に説明したり、観察・実験の学習活動を段階的に示し、その過程の中でキャラクター同士の会話を掲載することで、生徒が主体的・対話的な学習を進めやすいよう工夫されている。さらに、生物愛護、生命尊重、環境保全、地球にやさしい新技術などに関する科学的な話題を掲載するとともに、防災・減災の視点で対話的な活動を取り入れたりするなど、生徒が身の回りの安全や環境への関心を高められるよう工夫されている。

新興出版社啓林館「未来へ広がるサイエンス」である。学習内容の定着度を確認する難易度別の問題が掲載され、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい構成となっていることが特徴である。また、学習内容を言葉で説明する場面が設けられたり、結論に至った根拠を自分の言葉で明確に表現する活動が設定されているなど、対話的な学習を促すよう工夫されており、優れている。さらに、生命尊重を訴える写真やイラスト、地震や津波火砕流などを比較したグラフを掲載することで、生徒の環境保全や自然環境への意識が高まるよう工夫されている。しかし、身近な話題を設定し、問題発見から振り返りまでの探究活動が設定されている一方で、説明内容が詳細すぎて、生徒が学習内容を活用して問題発見・解決的な学習活動を進めにくい。

以上を総合的に勘案した結果、「大日本図書」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 音楽科(一般)・音楽科(器楽) 水谷 指導主事)

音楽科(一般)については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」である。巻頭ページに題材ごとの学習のねらいや学習を生かして比べる曲、学びの手がかりとなるヒントなどがまとめて掲載され、生徒が題材ごとの学習の流れを一目で理解できるような構成となっている。また、表現及び鑑賞活動を通して、音楽から喚起されるイメージや雰囲気、感じ取った曲想と音楽の構造とを関わらせながら音楽的な見方・考え方を働かせた学習が進められるよう工夫されている。さらに、民謡などにみられるコブシや産み字などの旋律装飾、リズムや旋律を表す口唱歌を楽しみながら体験できるようにしたり、それらを民謡譜例などで示したりすることで、生徒が我が国や郷土の伝統音楽に親しみやすいよう配慮されている。

教育芸術社「中学生の音楽」である。各題材で育成すべき資質・能力と、それに対応する学習内容や教材などが一覧で示されることにより、生徒が曲によって身に付けることができる資質・能力が一目で分かる構成となっている。また、生徒が学習のねらいに即して試行錯誤しながら表現を工夫する活動が示されるなど、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。さらに、表現及び鑑賞活動を通して、人はなぜ歌い、演奏し、つくるのかなど、「なぜ」という切り口で音楽を捉え、生徒がより幅広い価値観を養うことができる工夫も特徴である。加えて、郷土芸能について、中学生が郷土の祭りや芸能の担い手として活躍している様子や、すべての都道府県の郷土の祭りや芸能を紹介するなど、生徒が伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心を育むことができるよう工夫されており、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

音楽科（器楽）について、ご説明申し上げます。

教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」である。各教材が見開きで学びのねらい、学びのポイント、まとめの曲という3段階の構成になっており、生徒が学習の見通しを持ちやすい構成となっている。また、楽器の写真が全体的に大きく、各楽器の奏法や指、唇の位置等が生徒にとって確認しやすく、それぞれの説明が具体的でわかりやすい。さらに、鑑賞領域で学習した題材を掲載し、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定され、鑑賞活動と表現活動の関連が図れるよう工夫されている。加えて、箏の学習では五線譜と日本古来の縦書きの楽譜とを併用したり、篠笛・箏・三味線の学習で「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒の和楽器への関心を高める工夫も特徴的である。

教育芸術社「中学生の器楽」である。一般の教科書と同様、生徒が身に付けるべき資質・能力と学習内容や教材などが関連付けて示されるとともに、器楽分野と創作分野に関わる1年間の学びを俯瞰できるページが設けられ、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう優れた構成となっている。また、使用する機会の多い打楽器については奏法が具体的に示されるとともに、活動の指示などがすべての楽器の練習曲に示され、習得した技能の活用方法が生徒にとってわかりやすい。さらに、鑑賞領域で学習した題材を掲載し、鑑賞の活動で学習した内容を深めたり、学んだ知識を表現に生かしたりする活動が設定されていることに加え、楽器の演奏楽曲を併せて紹介するなど、表現領域と鑑賞領域との関連を図る工夫が優れている。他にも、箏の楽譜は日本古来の縦書きの楽譜が重視されていることに加え、よく響く場所など、音や音楽の持つ特徴に関する内容を取り上げるなど、生徒の伝統音楽への関心を高めるよう優れた工夫がされている。

以上を総合的に勘案した結果、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

（事務局説明 美術科 榊本 指導主事）

美術科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

開隆堂出版「美術 発見と創造、探求と継承」である。原寸大の作品や部分を拡大した写真が掲載されることで、生徒の探究意欲を高め、主体的・対話的な学習につながる工夫が特徴である。また、伝統を生かしつつ現代の生活に合わせて進化したり、形を変えて使われている美術の事例が掲載されたりするなど、生徒が日本ならではの伝統と文化の良さに気付き、尊重する態度を育成できるよう工夫されている。しかし、掲載されている作品の色味の豊かさが十分でないものがあることに加え、1つの題材で表現と鑑賞が結び付くようなポイントが示されておらず、生徒に表現と鑑賞を相互に意識させたり、関連させたりする手立てが弱い。

光村図書出版「美術」である。全体として、基礎的・基本的な知識・技能の習得、主体的・対話的な学習活動を促す工夫が優れている。また、生徒が色や形を意識し、造形的な見方・考え方を働かせて、作品を深く鑑賞し、豊かに感性や想像力を働かせながら学習できたり、我が国の伝統と文化を尊重し、その良さを理解・継承・発展しようとする

る態度を養える多くの資料を掲載するなど、優れた工夫がされている。さらに、各題材で「表現」「鑑賞」両方のポイントが記載され、造形的な見方・考え方を働かせ、表現と鑑賞の活動を相互に関連付けながら資質・能力を身に付けることができる工夫が優れている。他にも、触って質感を味わえる用紙に印刷したり、トレーシングペーパーをページに挟むなど、生徒の鑑賞活動が充実するための造本の工夫も特徴的である。

日本文教出版「美術 美術との出会い、学びの実感と広がり、学びの探求と未来」である。生徒が主体的・対話的に学習が進められるよう、作品の鑑賞ポイントを「造形的な視点」として示したり、協働して造形活動を進める写真を掲載したりしている特徴がある。また、伝統の技を現代の生活に合わせた作品を含め、伝統工芸など伝統と文化に関わる作品が多く取り上げられており、生徒が身近なものに関心に向け、感性や想像力を働かせることができるよう優れた工夫がされている。さらに、題材ごとに「表現」と「鑑賞」双方の内容で「学びの目標」が示され、生徒が表現及び鑑賞活動を相互に関連付けながら見通しを持って学習が進められる構成も特徴的である。

以上を総合的に勘案した結果、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 保健体育科 出野 指導主事)

保健体育科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい保健体育」である。学習活動の流れが導入からまとめ・振り返り、発展的活動まで順序立てて示され、生徒が見通しを持って学習を進め、学習内容を確認できるよう構成されている。また、生徒の実生活に即した学習課題に関する合理的な解決に向けて、多面的・多角的に考察し、その結果を発表や話し合い活動を通して発信できるよう、多様な学習方法を詳しく提示したり、実際に活用できるよう工夫されており、優れている。さらに、生徒が思考・判断・表現したことを書き込むスペースが設けられるなど、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができる工夫も優れている。他にも、交通事故や自然災害、犯罪被害などに関する具体的な回避の方法を自分で考えたり、話し合ったりする活動や「防災の自助・共助・公助」の観点から災害に備えることの重要性を学習できる工夫など、生徒が自身の実生活を振り返り、健康や安全の維持に必要な意思決定や行動選択につなげられる課題が設定されるなど、優れている。

大日本図書「中学校保健体育」である。生徒が興味を持ちやすい資料や表、課題解決に向けた学習を進める際に参考となるグラフや図などの資料が簡潔にまとめて掲載されており、基礎的・基本的な内容を習得しやすい構成が特徴である。また、交通事故や自然災害、犯罪被害などについて、具体的な回避の方法を自分で考えたり、話し合ったりする活動が設定されるなど、生徒が実生活の中で健康や安全に関する自身の生活の課題を見つけ、改善する方法を考えることができるよう工夫されている。しかし、導入からまとめまでの学習の流れが明確になっているものの、学習活動における発問の内容が生徒にとって具体的にイメージしづらく、興味を抱きにくい表現となっている。

大修館書店「最新 中学校保健体育」である。各単元冒頭に学習課題や学習内容に関するキーワードが示されるとともに、章末のまとめでは学習内容の理解度などを自己評価する欄が設けられることで、生徒が学んだことを振り返りやすい構成となっている。また、生徒の対話的な学習の充実に向け、多様な学習方法に取り組めるよう、具体的な

学習方法を提示したり、実際に活用できる課題を提示したりするよう工夫されている。さらに、ストレスへの対処のしかたについて具体的に考え、意見を出し合い、色々な考え方の可能性を探る活動や、交通事故や自然災害、犯罪被害などに関する具体的な回避の方法を自分で考えたり、話し合ったりする活動が設定されるなど、工夫されている。

学研教育みらい「中学保健体育」である。単元の構成が課題提示から内容確認の流れで統一されていたり、章末のまとめでは学習の理解度などを自己評価する欄や学んだキーワードを掲載したりする構成で、生徒が具体的に学習内容を理解しやすい工夫が特徴である。また、学習内容に応じて、説明したり表現したりする言語活動を伴う学習活動を設定することで、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう工夫されている。さらに、交通事故や自然災害、犯罪被害などに関する具体的な回避の方法を自分で考えたり、話し合ったりする活動や自助・共助・公助の観点から防犯対策に取り組むことの重要性を学習できる工夫など、生徒が自身の実生活を振り返り、健康や安全の維持に必要な意思決定や行動選択につなげられる課題が設定されるなど、優れている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

（事務局説明 技術・家庭科（技術分野） 深尾 主任指導主事）

技術・家庭科（技術分野）については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」である。思考ツールを使った課題設定の方法や、グループの話し合い活動を紹介するとともに、問題解決のプロセスを5つのステップで統一的に示すことで、生徒が見通しと課題意識を持って問題解決的な学習に取り組めるよう優れた構成となっている。また、これから学習する技術の内容が、生活や社会の中でどのように活用されているかを、身の回りの製品を例にして紹介されたりするなど、生徒が社会と技術の学習とのつながりを実感できる手立てが優れている。さらに、巻頭に技術の最適化の概念や、実際の製品に活用されている事例を紹介するとともに、最新のテクノロジーを紹介することで、発展的な学習へと結び付ける工夫も特徴である。加えて、プログラミングについて、学習状況に応じた問題解決例を豊富に掲載するなど、生徒が基本的なコンテンツを改善・修正する活動に取り組みやすいよう工夫されてる。

教育図書「New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」「技術ハンドブック」である。問題解決に向けた設計・計画の手順を4ステップで統一し、問題解決のためのヒントや発表、話し合い活動につながる内容が掲載される構成となっている。また、生活や社会の中で活躍する機械や、伝統工芸品などを取り上げるとともに、生産者や開発者が製品に込めた思いが伝わるメッセージを紹介するなど、生徒の学習に対する意欲を高める手立てがされている。しかし、生活や社会における技術の役割に関する具体例や生かし方を考える構成となっているものの、技術の最適化に関する概念の説明や取扱いが不十分である。また、プログラミングに関する解説・説明など、学習に必要な情報量としては過多気味であり、学習しづらい。

開隆堂出版「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」である。問題解決に必要な要素と流れがひと目でわかるよう見開きでまとめられており、生徒が問題解

決の流れをイメージしやすい構成となっている。また、身の回りの製品の工夫点や製作者の思いや願いを紹介することを通して、生徒が技術の見方・考え方に気付けるようにするとともに、世界や日本の技術の歴史を通して、生活や社会での技術の役割や進展についての理解を促すよう工夫されている。さらに、技術の最適化について図を用いて説明した上で、「トレードオフ」という言葉を一貫して用いることで、最適化を捉えやすく、繰り返し学習できるよう工夫されていることに加え、プログラミングに対する本質的な理解を図るための基礎・基本に関する内容も充実している。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 技術・家庭科(家庭分野) 島 指導主事)

技術・家庭科(家庭分野)については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」である。実習や生活の実践に関わる技能や科学的根拠がポイントをまとめて掲載されたり、家庭分野の学習に関わる表現や名称の解説が巻末にまとめられていることで、生徒が基礎的・基本的な知識・技能をいつでも繰り返し確認できる構成が優れている。また、問題解決のプロセスに沿った手順を紹介するだけでなく、生活の営みに係る見方・考え方の視点を4つのキーワードを用いてまとめて紹介したり、各編導入にマークで明示したうえで実践的・体験的活動を行う構成とするなど、生徒が見方・考え方を繰り返し働かせながら、自立と共生を目指す学習活動がバランスよく展開されている。さらに、伝統的な料理や食材、衣服の文化、和式の住まいの特徴、京町家の写真など、日本の伝統的な生活文化に関する内容には「伝統文化」マークを付けて掲載し、生徒の注視を促すよう工夫されている。

教育図書「New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する」である。学習活動の流れを3ステップで統一したり、調理や製作に関する学習の流れを見開きページに掲載し、解説付きの写真や図表など、科学的な理解を助ける視覚的な資料も豊富に掲載するなど、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい構成となっている。また、伝統的な年中行事や、地域の食文化、伝統的な住まいなど、日本の伝統的な生活文化に関する内容に「伝統文化」マークを付けて掲載し、生徒の注視を促すよう工夫されている。しかし、家庭分野の学習の進め方や考え方の視点が具体的に紹介されてはいるものの、生活の営みにかかる見方・考え方についてまとめた記載がないため、生徒が実践的・体験的な学習内容をイメージしにくい。

開隆堂出版「技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生」である。基礎・基本の知識を枠組みで強調して示したり、調理や製作に関する見開きページでは、科学的根拠を示したり、写真やイラストが効果的に掲載されるなど、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しやすい構成となっている。また、問題解決のプロセスに沿った手順を紹介するだけでなく、生活の営みに係る見方・考え方がイラストを用いてまとめて掲載されるなど、生徒が見方・考え方を繰り返し働かせながら学習できるよう工夫されている。さらに、全国各地の和食や郷土料理、伝統的な民家や和服など、日本の伝統的な生活文化に関する内容に「伝統文化」マークを付けて掲載し、生徒の注視を促すよう工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 外国語科 寺西 副主任指導主事)

外国語科については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「NEW HORIZON English Course」である。各単元の学習目標と小学校から高等学校までの学びを見通したCAN-DOリストにより、中学校での到達目標に焦点化した学習に取り組むやすい。また、各ステージでの目標到達度や学習成果、課題を整理し、次のステージで取り組むべきことを生徒自身が見通しを持つことができるよう工夫されているなど、構成に優れている。各単元には、目的や場面、状況、伝える相手を連想しながらペアやグループで取り組む活動が豊富で、コミュニケーション活動等を行うコーナーも多彩に用意されている。さらに、複数領域を統合的に活用し、見方・考え方を働かせて取り組む多様な言語活動や習得した知識・技能を活用して取り組む発展的な活動など、系統的・発展的な学習の構成に優れている。小学校外国語科との接続は、小学校で学んだ表現を活用する活動等が用意されるなど工夫されている。

開隆堂出版「SUNSHINE ENGLISH COURSE」である。5領域別にまとめられたCAN-DOリストは、生徒自身が「できるようになったこと」を繰り返し把握し、身に付けたことの過程が具体的にわかるよう工夫されており、効果的な手立てとなっている。また、概要や要点を捉える力、事実や考えを整理して発信する力等を身に付けるための各種コーナーに加え、即興的なやりとりを行う活動や社会的な課題に対して英語で発信する活動など、多様な活動が設定されていることが特徴的である。小学校外国語科との接続は、小学校で学んだ表現を活用してコミュニケーションを楽しむ活動等が用意されるなど工夫されている。

三省堂「NEW CROWN English Series」である。各単元で言語材料と言語活動が関連付けられるなど、体系的な配列が工夫されているとともに、新出の言語材料や単元で取り組む学習活動が示されており、生徒が学習の見通しを立てやすい。また、題材に一貫性を持たせて、テーマ設定やゴールに至るまでのステップを踏んだ学習の流れで、生徒が主体的に考え、継続して学べるよう工夫されている。さらに、実際のコミュニケーション場面を想定した表現活動や各領域の活動を段階的に高めながら取り組む活動など、生徒が自分の考えを整理しながら発信する力を身に付けるための工夫に優れている。小学校外国語科との接続は、小学校での学習と類似した場面等の言語活動等が用意されるなど工夫されている。

教育出版「ONE WORLD English Course」である。関連性のある言語材料を同じ単元や連続した単元で扱うなど、系統的な配列が工夫されているとともに、3年間の学びを見通した中で、各単元のコーナーやCAN-DOリストにより、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。ただし、各コーナーで各領域の言語活動はバランスよく設定されているものの、活動相互のつながりが弱く、生徒が複数領域を統合して活用するための工夫としては十分でない。また、各学期末にまとめとして取り組む「Project」では、5領域を活用して言語活動に取り組む課題が設定されているが、理解した内容をもとに発信する手立てがみられない。小学校外国語科との接続は、音声から内容を理解できるよう構成されるなど工夫されている。

光村図書出版「Here We Go! ENGLISH COURSE」である。教科書全編で学習の流れが統一されているとともに、3年間でひとつの物語となる構成で、生徒がストーリーを推測しながら、スパイラルに語彙・表現を学習できるとともに、実生活や実社会に即した場面や素材が豊富で、自然な形で学習を進められる点が特徴である。また、各単元の到達目標及び振り返りと、巻末のCAN-DO リストを相互に関連付けることで、俯瞰的な学習が進めやすいとともに、各所に学んだ知識・技能を活用しながらグループで協力して取り組む活動や相手に伝わるようにするための改善点を考える活動等、外国語によるコミュニケーション力を高めながら、生徒が主体的・対話的な学習を進めるための手立てが豊富で、学びを深めるための優れた工夫となっている。小学校外国語科との接続は、音声や視覚資料が効果的に配置されるなど工夫されている。

啓林館「BULE SKY English Course」である。生徒にとって身近な話題と言語材料に関連付けて、英語学習への自然な導入を図ったり、生徒が見通しをもち、振り返りや自己評価を行うための工夫、即興で話す、話したことを書く活動等が適宜設定されている。ただし、発信活動に取り組む際の手立てはほぼみられず、生徒にとって使いづらいうえ、ペアやグループなどの協働で取り組む活動のバリエーションが少ないなど、手立てが十分でない。さらに、即興的な対話活動では、対話を広げるための工夫が示されないなど、全体的に手立てや工夫が不十分である。小学校外国語科との接続は、小学校で学んだ語彙や表現を振り返る活動が用意されるなど工夫されている。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 特別の教科 道徳 角田 指導主事)

特別の教科 道徳については、京都市地区中学校教科書選定委員会の答申に基づき、以下のとおり、各教科書の主な特徴が認められる。

東京書籍「新訂 新しい道徳」である。各教材に、テーマ、教材内容に関連した漫画、2段階の発問が提示されており、生徒が主体的に学習を進めやすく、また、テーマや漫画と発問を関連させて振り返る構成が、考え、議論するための有効な手立てとなっている。豊富な特設ページに加え、イラストやワークシート形式での学習の流れの提示、複数教材を組み合わせたユニットの構成など、生徒の多様な見方や考え方を促し、幅広い視野からより深く考えるための工夫に優れている。さらに、現代的な課題に関する教材は、様々なテーマがバランスよく取り扱われており、複数教材を組み合わせたり、関連教材を複数配置するなど重層的な学びにつながるよう工夫されているとともに、巻末の学習記録（自己評価）の特設ページは、次学年や卒業後を見据えるなど構成に優れ、生徒にとって使いやすい。

教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」である。各教材に、生徒にわかりやすい導入文や3段階の発問が提示されており、巻末の毎時間ごと、学期ごとに学びを振り返る特設ページや生徒向けメッセージと併せて、生徒が自らの考えの変化や成長を実感するための効果的な手立てとなっている。また、補充教材を複数用意するとともに、現代的な課題をテーマとする特設ページやコラム等を適宜配置するなどして、生徒の多様な見方や考え方を促している。ただし、適宜、グループ活動や意見交換、話し合い活動等を取り入れたり、特設ページやコラムを配置するなどして、考え、議論する学習活動を進められるよう工夫されているものの、いずれも他社に比べて特筆すべき工夫等となって

いない。

光村図書出版「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」である。1年間を3シーズンに分け、各シーズンのテーマに関連した内容項目の教材を有機的に結びつけるユニット構成が特徴であるが、各校の年間指導計画との整合性を図り、ユニットの効果を損ねないよう教材の配列を再構築することが難しい。各教材の「手引き」には、切り口を変えた複数の発問、問題解決的な学習や体験学習を促す発問、他教科・教材等との関連が示されるなど、多様な学びにつなげる手立てが豊富に用意されている。また、特設ページ「深めたいむ」では、授業での学びと生活をつなげて考えることで、多面的・多角的に考えを深められるよう工夫されている。さらに、巻末の折込は、毎授業の学びをつなげて記録し、学期・学年ごとに振り返り活動が行えるよう構成が優れている。

日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」「道徳ノート」（以下「別冊ノート」と表記する。）である。各教材に、主題、登場人物のイラストが提示されており、生徒の教材理解を助けているとともに、2段階の発問により、生徒が主体的に学習を進めやすい。また、問題解決的な学習や体験的な学習は、実際の活動場面の写真とともに、特設ページで学習を深めるヒントや視点が示されることで、多面的・多角的に考えを深められるようよく工夫されている。さらに、適宜掲載されるコラム「私の生き方」が、生徒の多様な見方・考え方やより深く考えることの効果的な手立てとなっている。ただし、現代的な課題等は、複数教材とコラムを組み合わせたユニットを構成するなど工夫されているものの、学年間で教材の配置にバランスを欠く面があるとともに、教科書本冊は右開き、別冊ノートは左開きのため、使いにくい印象である。

学研教育みらい「新・中学生の道徳 明日への扉」である。各教材に主題名が示されていないが、生徒の気付きや考えを促すキーワードが用意されており、生徒が学習に取り組みやすい。また、教材と異なる視点や関連情報等を紹介する特設ページが豊富で、問題提起を伴う学習活動、思考ツールや役割演技、メンタルトレーニング等の多様な活動が、生徒の道徳的価値の深い理解につながられている。いのちの教育と情報モラルが重点化され、「地球と地域の未来のために」など他社にない独自テーマが特徴であるとともに、各教材の自由記述欄、巻頭や巻末の心に残ったことなどを書く特設ページが、事前学習や話し合い活動、振り返り活動等で幅広く活用でき、優れた手立てとなっている。

廣済堂あかつき「中学生の道徳 自分を見つめる、考える、のぼす」「中学生の道徳ノート 自分を見つめ、考える、のぼす」（以下「別冊ノート」と表記する。）である。各教材末に、学習の手がかりや複数の発問が提示されているものの、教材冒頭には、教材名しか示されていないため、生徒が見通しをもって学習に取り組むづらい面がある。別冊ノートには、本冊とは異なる発問や内容項目の解説、様々な切り口の関連情報が豊富に掲載されているとともに、毎時間の授業の記録や自己評価等の書く活動が充実しており、事前学習や話し合い活動、振り返り活動など、授業のあらゆる場面で柔軟に活用でき、多面的・多角的な学びにつながるようよく工夫されている。また、現代的な課題等については、特に生命尊重といじめ防止・人権尊重が重点とされており、教材や特集ページなどを複数組み合わせ、重層的な学びとなるよう工夫されている。

日本教科書「道徳 中学 生き方から学ぶ、見つめる、創造する」である。各教材に、考え、議論するための複数の発問が設定されているとともに、教材と特設ページ等を組み合わせた構成の工夫や伝統文化に関する教材等が豊富に用意されているものの、各教材に主題等が提示されておらず、生徒が教材の内容を捉えにくく、また、学年や教材で

発問数にばらつきがあるとともに、発問自体も学びの深まりにつながらないものが多いなど、手立てが弱い。さらに、多様な見方や考え方につなげるため、教材とコラムを関連付けたり、特設ページで話し合い活動や問題解決的な学習等を促したりするなどの工夫がみられるものの、具体的な学習の手立てが少なく、生徒にとって使いづらい。

以上を総合的に勘案した結果、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針及び選定の観点に最も即した教科書であると考ええる。

(事務局説明 学校指導課 文田 担当課長)

今後の予定をご報告申し上げます。「開かれた教科書採択」として、本日も含め、これまでの教育委員会での審議内容や、選定委員会の概要、答申等について、近日中に教育委員会ホームページで公開する。

また、本日採択された教科書に基づき、各教科の指導計画（京都市スタンダード）の改訂を進めてまいる。新しい学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、すべての市立中学校で「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が進むよう、また、GIGAスクール構想に基づく「一人一台端末」を見据え、ICTを活用した単元構想・授業展開の例も取り入れるなど、内容の充実に取り組んでまいる。改めて、作成の進捗状況等については、適宜、教育委員会でも報告してまいる。

(委員からの主な質問・意見)

【星川委員】5月の基本方針以降、選定委員会や各教科の調査研究部会において、精力的に調査研究いただいた。この間、計7回に渡る教育委員会会議における中間報告や勉強会でも詳細に検討状況を報告いただき、私たち委員も様々な意見や質疑を述べ、全体としていい形で選定が進んできたと思っている。

教科書展示会でも、多くのご意見を頂戴しており、その一つ一つの内容を見ても、市民の関心が高いことが伺えるところであるが、その中で1点勉強会で聞き洩らしたことであるが、教育芸術社の音楽科（器楽）では、「箏」のルビが「こと」になっているが「そう」ではないかという指摘があった。この間の事務局の説明では「そう」と発音されていたが、学校現場の指導を含めて、このあたりどう考えたらいいか。

また、採択教科書について、本市では社会科（歴史的分野）で現在使用のものから変更する案となっているが、例えば、横浜市でも社会科の採択替えを行ったと聞いている。他の政令指定都市の採択状況はどうか。

【事務局】「箏」の読み方については、学校現場では、わかりやすく説明するためにも「こと」として指導する場合が多い。生徒たちに馴染みがある言い回しは「こと」であるが、「箏」を「そう」と読むことも合わせて指導している。

また、他の政令指定都市の採択状況については、横浜市が社会科の歴史的分野を育鵬社から帝国書院へ、公民的分野を育鵬社から東京書籍へ採択替えをされたと把握している。他の政令市は、現時点でまだ公開されていない都市もあるため、公表され次第、改めて報告する。

【野口委員】音楽科の教育芸術社40ページに、「箏」と「琴」についての記載がある。

ここでは、「箏」と「琴」の違いとして、柱を用いるか否かの説明があるとともに、時代の流れによって「こと」といえば「箏」を指すことが一般的になったと記載されている。学校現場では、楽器の特徴や時代の流れによって様々な呼び方があることを踏まえたうえで、授業を行っていただきたい。

【教 育 長】新学習指導要領では、各教科の学びを通じて「何ができるようになるか」を明確化するとともに、「どのように学ぶか」も重視されている。数学科や理科は、特に学習の過程、「どのように学ぶか」が大切であるが、採択候補の教科書の特徴等はいかがか。

【事 務 局】数学科では、身の周りの事象を数学的に捉え、一つの答えを出して終わりにするのではなく、さらに資料を追加したり、条件を変えたりするなどして、より深く考えることができる点に注目した。理科では、探究の過程を重視し、教科書で説明されすぎず、主体的に探究的な学習に取り組めるよう工夫されていることが、生徒にとって有効と判断した。

【奥野委員】この間の教育委員会会議でも各教科の教科書について協議してきているが、特に、特別の教科 道徳においては、至れり尽くせりではなく、問いを問うことが大切だと感じている。採択候補の東京書籍では、問いを問う部分での工夫はいかがか。

【事 務 局】東京書籍では、各教材に段階的な問いが設定されており、重点を置いて学習したい部分にはワークシートが用意されているなど、生徒の多様な見方や考え方を促し、生徒が「自分ごと」として考え、幅広い視野からより深く考える工夫に優れている。

【奥野委員】令和3年度から使用する教科書について、文部科学省において検定合格となった106点の教科書は、新型コロナウイルス感染拡大前に編集作業されたため、新型コロナウイルス感染症にかかる記述はないが、授業の際には扱っていただきたい。

【事 務 局】保健体育科での感染症についての単元や、社会科の公民的分野での現代社会の学習において扱うことができると考える。京都市スタンダード作成の際には、これらを勘案しながら進めてまいる。

【高乗委員】この間の教育委員会での報告では、同じ単元の比較、同じテーマの比較で特徴や異なる点を説明いただき、わかりやすかった。京都市スタンダード作成にあたっては、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を進められるようにしなければならない。スタンダード作成の際、今回の教科書採択で調査研究にあたった調査研究部会部員の意見等は、どのように反映していくか。

【事 務 局】調査研究にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、選定の観点で生徒目線の選定を大切にすることとし、進めてきた。京都市スタンダードの作成については、引き続き調査研究部会部員に携わっていただくとともに、GIGAスクール構想に基づく「一人一台端末」を見据え、ICTを活用した授業展開に向けて、若手教員にも協力いただき、様々な発想を活かしながら、進めてまいる。

【野口委員】数学科や理科において、勉強のための勉強ではなく、勉強の中でも、日常生活や社会との関わりを意識できる点に着目して調査いただいたこと

がよいと感じた。また、新型コロナウイルス感染症対策により、生徒自身が実際に行う実験等が今後も困難な状態が続くと想定されるため、京都市スタンダードの作成にあたり、勘案いただきたい。

【事務局】現在、生徒自身による実験を行うことが難しい状況であるが、対策を講じて実施したり、動画を使用したりして授業に取り入れている。今後、リモートを取り入れるなど、効果的な手法を検討のうえ、京都市スタンダードを作成してまいる。

【笹岡委員】教科書展示会で多くの方々のご意見を頂戴するなど、開かれた教科書採択を進める中、教育委員会においても、公正・公平な教科書採択に向けて議論を重ねてきた。そういった議論の過程を、市民に広く知っていただいたほうがよい。採択終了後、市民にはどこまで公開するか。

【事務局】基本方針や選定の観点、教科書展示会の実施結果、選定委員会委員名簿、答申に加え、教育委員会会議や、選定委員会会議の概要なども広く公開する。基本的にはすべての資料を公開するが、教科書のコピーや選定委員会委員の年齢など、著作権や個人情報に抵触するような内容は掲載しない。

(議決)

教育長が、議第11号 令和3年度から令和6年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）において使用する教科書の採択について、各委員「異議なし」を確認、議決。

議第12号 京都市立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

(事務局説明 辰巳 学校指導課担当課長)

本議案は、京都市立西京高等学校定時制及び伏見工業高等学校の統合・再編による令和3年4月に開校する京都市立京都奏和高等学校の設置に伴い、同校の課程、学科等について定める必要があり、またそれに併せて単位制や学期の規定整備を行うため、「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」の一部を改正するものである。

はじめに、京都奏和高等学校の設置に伴う改正についてである。課程は「定時制」で、学年による教育課程の区分を設けない「単位制」とし、学科は「普通科」とする。修業年限は「3年又は4年」で、在学年限は「7年」とする。修業年限は西京高等学校定時制と、在学年限は西京高等学校定時制及び伏見工業高等学校と同様である。修業年限については、京都奏和高等学校の一つの特徴でもある昼夜間4部の授業時間帯のうち、選択した部によって3年又は4年のどちらかとなる。学期については、西京高等学校定時制と同様の3学期制とする。

京都奏和高等学校については、7月23日、24日のそれぞれ午前・午後の計4回生徒・保護者を対象とした説明会を行い、計600名を超える参加があり、新校の特徴や学びについての説明を行ったところである。9月以降にも開催予定の説明会等を通して、より一層理解いただけるよう力を入れてまいりたい。

続いて、単位制の規定についてである。現在、市立高等学校の中で、単位制の学校は、伏見工業高等学校と日吉ヶ丘高等学校があるが、新たに設置する京都奏和高等学校も単位制を採用する。そのため、単位制について規定している第3条第2項に京都奏和高等学校を新たに追加するとともに、「単位制による課程」という文言を、学校教育法施行規則の規定に合わせて、「学年による教育課程の区分を設けない」という文言に改正する。

次に、市立高等学校の学期についてである。これまでは各校別の学期と各学期の期間について別表第2にて細かく規定していたが、実際の学期の期間は、授業日数の確保や土日・祝日の変動などのため、毎年度校長裁量により、規則で定められた期間外で調整されて教育委員会に届け出られている。実態をより反映した規則とするため、別表第2は削除し、2学期及び3学期について全校共通した期間を新たに規定したうえで、これまで通り、校長裁量により、本規定による各学期の期間を変更することも可能とし、その場合は、教育委員会に届け出ることとする。また、学校運営上、2学期及び3学期以外の学期の区分を定める必要がある場合は、教育委員会の承認を得て校長が定めることができるように、新たに規定を追加する。

最後に、文言修正にかかる改正であるが、現行の規則中に、「在籍」という文言が使用されているところを、学校教育法上の表現である「在学」という文言に整理するものである。

(委員からの主な意見)

特になし

(議決)

教育長が、議第12号 京都市立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について、各委員「異議なし」を確認、議決。

エ 非公開の宣言

教育長から、議案2件について、会議を非公開とすることを宣言。

オ 議決事項

議第13号 令和3年度京都市立高等学校第1学年生徒募集定員について

(事務局説明 辰巳 学校指導課担当課長)

議第13号「令和3年度京都市立高等学校第1学年生徒募集定員」について、ご説明申し上げます。

まず、令和2年3月の京都市立中学校卒業生の状況についてである。

本市立中学校卒業生数は前年度から166名減少し、9,332名となっている。うち、高等学校等への進学率は、99.2%であり、そのうち、全日制高等学校への進学率は91.6%となり、昨年度から0.5ポイント増加している。

全日制への進学者のうち、公立は昨年度から0.7ポイント減の52.7%、私立は昨年度から1.2ポイント増加し、38.8%となり、私立への進学率は平成6年度以降最高値となっている。

定時制への進学者については、進学率1.8%と昨年度から0.3ポイント減少。また、

通信制進学率が 3.7%となり、昨年度から 0.2 ポイント減少しているが、昨年度同様、高い水準で推移している。

次に、昨年度の入学者選抜結果の全体概要をご説明申し上げる。

京都市・乙訓地域の通学圏の公立高等学校の状況として、公立高等学校全日制では 6,270 名の定員を設定し、6,138 名が合格、132 名の欠員となった。平成 26 年度以降、最大となる大規模な欠員となっている。定時制においては、470 名の定員を設定し、253 名が合格、217 名の欠員となり、例年と同等の結果となった。

次に、選抜方式には、前期・中期・後期・特別入学者選抜とあり、区分ごとに説明する。前期選抜では、各学校の定員のうち、普通科の 30%、職業学科で 70%、「その他専門学科」については前期選抜で定員の 100%を募集している。昨年度は 6,418 名が受検し、2,913 名が合格、実質倍率は 2.20 倍となっている。

特別入学者選抜では、帰国子女、長期欠席者等、対象者を限った制度及び府立清明高等学校での入試であり、182 名が受検し、157 名が合格、実質倍率が 1.16 倍となっている。清明高等学校では、137 名が受検し、120 名が合格、実質倍率が 1.14 倍と、開校時からすると落ち着いてきている。

中期選抜では、全日制普通科では 3,432 名が受検し、3,050 名が合格、職業学科では 160 名が受検し、148 名が合格となったが、全日制の普通科では府立高等学校 4 校で 125 名の欠員、専門学科では府立高等学校 2 校で 22 名の欠員が生じた。

後期選抜では、中期選抜で欠員が生じた全日制普通科の東稜、洛水、乙訓、定時制の伏見工業、西京、朱雀、鳥羽、桃山で実施し、全日制普通科では 6 名が受検、定時制では 3 名が受検し、全員合格となっている。ここまでの、昨年度の入試の状況の説明となる。

次に、今回、議案として提出させていただいている京都市乙訓地域における募集定員についてである。

定員の設定の考え方に関しては後程、説明させていただくが、府立、市立のうち、初めに「京都市立高等学校の募集定員」(案)についてであるが、令和 3 年度、市立高等学校については全日制では定員の増減はなしとしている。定時制では、京都奏和高等学校で新たに募集を開始するが、伏見工業、西京の募集を停止するため、定時制についても定員は変わらない。

次に、令和 3 年度選抜における募集定員の設定理由についてである。

まず、募集定員を検討する際の基本的な方針として、中学 3 年生の進路保障と全日制高等学校への進学率の向上を最優先事項として、京都市だけでなく、乙訓地域も含めた状況を踏まえ、京都府教育委員会と定員の協議・検討をしている。合わせて、公私協調で、私立中学高等学校連合会とも協議を重ねてきたところである。とりわけ府教委とは、4 月以降幾度も調整協議を重ね、8 月 4 日に府市の部長間で協議を行い、本日の議案提出に至ったものである。

まず前提となる市乙地域の今年度の中 3 生数は、10,542 名であり、前年度より 128 名減少する。

令和 2 年度選抜では、市立中学生において、通信制への進学率が高い水準で推移するなど、進路選択が多様化する中、市立中学生全体の全日制進学率が 91.6%と、依然として隣接する通学圏より低い傾向にある。隣接する山城圏は 91.6%と並んだが、乙訓地域の 93.9%、亀岡市の 93.3%よりは依然として低いため、向上を目指したい。

また、国の就学支援金や京都府のあんしん修学支援制度について、これまでは年収 500 万円までの世帯に対し、おおよそ私学の学費である 65 万円の補助があったが、今年度からは年収 590 万円までの世帯に拡充されるなど、制度が充実していることで、私学への進学率が依然として高い水準で推移していることもあり、先ほど申し上げたとおり、中期選抜において、普通科では府立高等学校 4 校で 125 名の欠員、専門学科では 2 校で 22 名の欠員が生じ、特に普通科では平成 26 年度の選抜制度改革以後、初めての欠員となった。

通常では中 3 生数の減少と私学志向の高まりにより、公立の募集定員を大きく減らすという考え方になるが、とりわけ今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮する世帯が増えている中、令和 2 年 6 月 18 日、京都府公立中学校長会から、令和 3 年度選抜の募集定員について「例年以上のできる限りの配慮」をすることの申し入れがあった。また、家計急変の世帯に対し援助する制度があるが、昨年度は 1 年間で 7 件の申請であったところ、今年度は 4 月から 7 月で約 40 件の申請があったと聞いている。電話での相談件数もこれまでで 130 件ほどあると聞いており、今後、さらに増えることが想定される。

以上の状況を踏まえ、令和 3 年度市・乙地域の公立高等学校の募集定員については、全日制進学率の維持・向上の観点、またコロナ禍による社会情勢への配慮から、募集定員をできる限り確保することとし、全日制で 40 名減に留めることとしたい。定時制については現状維持としたい。

全日制的定員削減の対象校としては、昨年度、中期選抜で欠員が生じた高等学校での削減を前提とし、乙訓地域 2 校で多くの欠員が生じていることを踏まえ、府立西乙訓高等学校を 40 名減としたいと考えている。同じく定員が割れた東稜、洛水については、生活困窮世帯が多く、コロナ禍の影響を受ける可能性が高い地域であったため、京都府教育委員会に定員維持を依頼し、合意した。

以上、京都府教育委員会との協議を経た定員の考え方の説明である。なお府立高等学校の募集定員については、8 月 24 日（月）午後の京都府の教育委員会議で審議予定である。

最後に、令和 3 年度選抜に係るこれまでの経過・今後の予定についてである。

これまでの経過について、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、5 月の中学校教員向けの公立高等学校説明会が中止となり、代替措置として全中学校へ各高等学校の説明資料を配布した。また、6 月末の保護者・生徒向け公立高等学校合同説明会が中止となったことを受け、7 月 3 日に代替措置として京都府公立高等学校紹介動画サイト「まるごとスクール Web」を公開した。府内各校の動画が視聴できる大変充実したものになっている。QR コードを掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。さらには令和 3 年度入学者選抜においては、府内の中学校等で臨時休業が実施されたことを踏まえ、中学校 3 年生の学習内容のうち一部を学力検査問題の出題範囲から除外することを 7 月 8 日に公表した。

今後の予定について、8 月 24 日（月）に府立高等学校の定員が決議され、令和 3 年度選抜の募集定員が広報発表されるが、合わせて「部活動などの評価における配慮事項」についても公表される予定となっている。

議第 13 号についての説明は以上である。ご審議の程よろしく願います。

(委員からの主な意見)

【教 育 長】募集定員について、当初は京都府教育委員会としては、生徒数の減少等を踏まえ 120 名の削減を考えていたが、中学校長会からの要望もあり、両教育委員会が協議を重ねた結果、40 名の削減となっている。

(議決)

教育長が、議第 13 号「令和 3 年度京都市立高等学校第 1 学年生徒募集定員」について、各委員「異議なし」を確認、議決。

議案 1 件に係る会議録について、人事に関する案件のため非公開

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

8 月 11 日～14 日 学校閉鎖日

8 月 17 日 ジュニア京都観光大使感謝状贈呈式・任命式

8 月 19 日 教育福祉委員会

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11 時 50 分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長